

# 城山エコミュージアム通信

2011. 3. 18 第8号



エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）の造語で、その地域そのものが生きた貴重な資料であるという考え方の下に地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

## 里山春だより

立春がすぎると、寒さの中でも春の準備がすすんでいることがそこかしこで感じることができます。2月も末になるとアカガエルが、3月の中旬にはヒキガエルが、小松にある「城山自然の家」前の田んぼに卵を産みます。田んぼの水がたまった所にある黒い粒々の入ったゼリー状の丸いかたまりはアカガエルの卵塊です。だんだん暖くなる日差しの中でよく見ると少しずつオタマジャクシに変化していくのが観察できます。

田んぼのそばの麦畑では、寒さの中元気に育つ麦の青々とした緑が。この畑の周りでは在来種のカントウタンポポの大きな株も観察できます。

カタクリの里には3月も中頃になると、大勢の方がカタクリの群落を見にきます。でも、カタクリだけでなく春を告げる里の花々が咲く様は、図鑑に載っているような植物が目の前に次々と現れる、心躍る季節です。

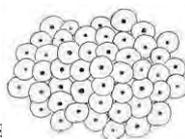
春の七草も田んぼですぐに見つかります。コオニタバコ（ホトケノザ）は、とても珍しくなりました。ヤブカンゾウや、ヨモギを摘んで天ぷらにしたり、スミレやタンポポのサラダを楽しむのもこの季節ならではの、ほんの少しいただくのが体に良いとのこと。



城山自然の家



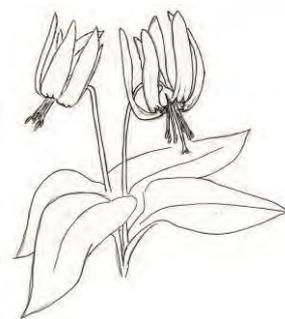
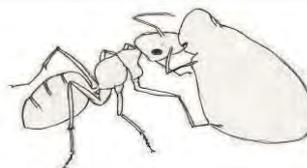
タチツボスミレ



カエルと卵

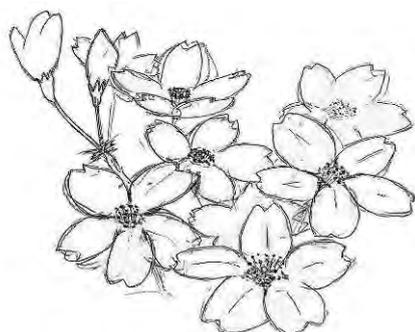


カントウタンポポ



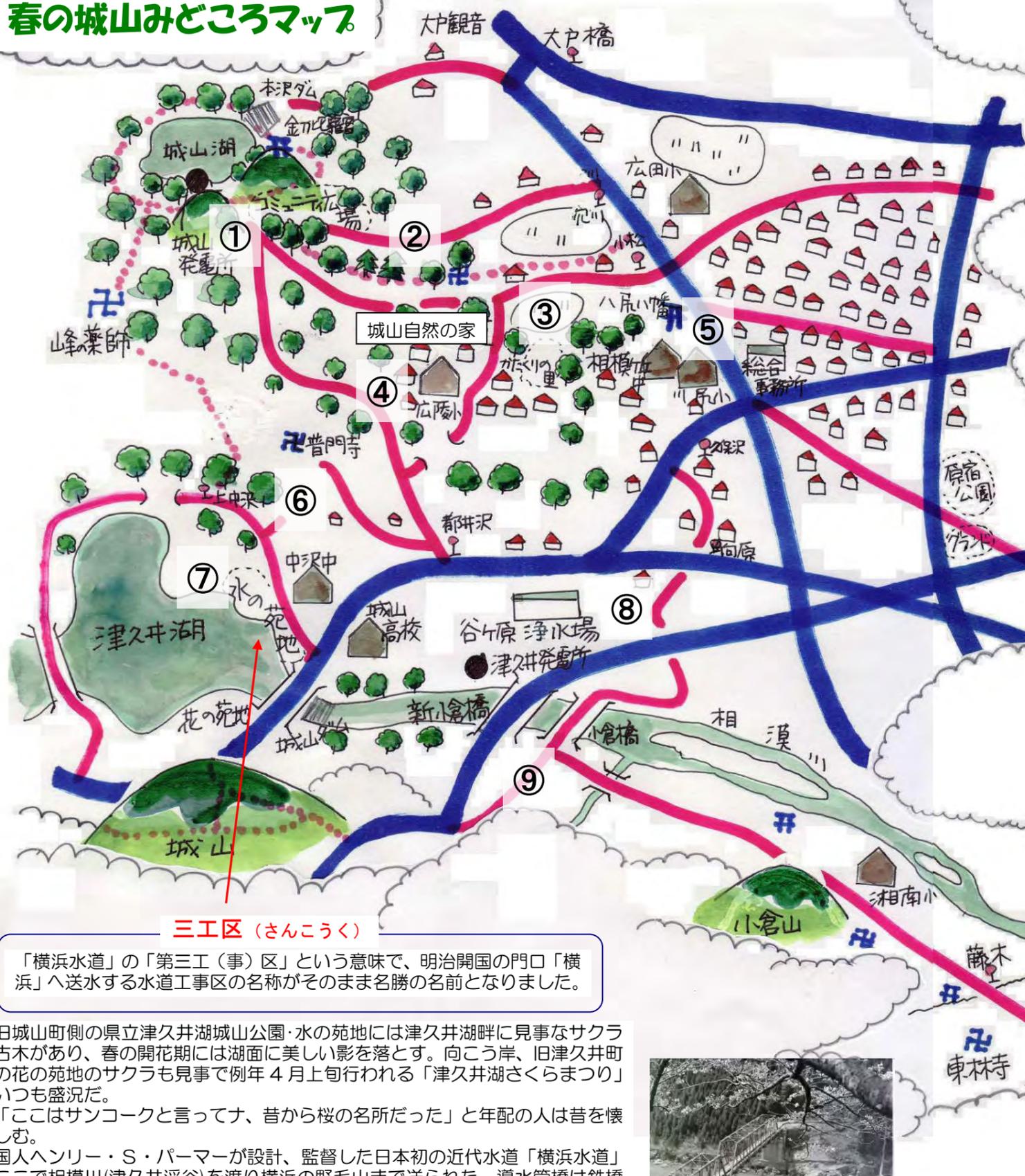
カタクリの種を運ぶアリ。アリによってまかれた種は芽を出し、7年程を経て花を咲かせます。

### そして4月の桜 (次ページ地図参照)



サクラは、バラ科サクラ属の植物で、5枚の花びらを持つのが特徴です。この花びらが1枚ずつ別々になっているので、はらはらと散り風情有ります。バラ科にはイチゴやリンゴ、桃、梅など食用となる植物が多くアーモンドも同じ仲間です。サクラとよく似た花を咲かせます。花見と言えばソメイヨシノで、サクラの開花前線の指標となる品種ですが、花は1~2週間しか持ちません。野生種のヤマザクラは、その後も比較的長く咲いていますので、城山や近辺の山々に出かけてみたらいかがでしょうか。

# 春の城山みどころマップ



- ① 城山湖周辺**  
 城山湖は昭和40年に完成した人造湖。夜間津久井湖の水を汲み上げ、昼間津久井湖に放流して発電する日本最初の本格的純揚水発電所。  
 近くにあるコミュニティ広場周辺には桜がたくさんあります。湖を1周できる散策路や作家加藤武雄の文学碑などがあります。
- ② 金刀比羅宮参道周辺**  
 文化元年(1804)創建の金刀比羅宮。小松地区から続く参道はハイキングコースにもなっていて、お宮近くの参道の両脇や南斜面に桜が咲きほこります。また、金刀比羅宮のある山には龍籠(たつご)伝説が残ります。毎年4月10日には例大祭が行われます。
- ③ 城山かたくりの里**  
 カタクリは、ユリ科の多年草で生涯のほとんどを地中で過ごします。早春、6枚の花びらがうつむくように咲きます。ここでは30万株以上の日本かたくりと黄花カタクリを見ることができます。
- ④ 広陵小学校周辺**  
 若葉台団地とともに開校した小学校。南側には開発前の里山の自然が残されています。住宅地の中では、珍しく山桜などを見ることができます。
- ⑤ 川尻小学校**  
 創立138年の伝統ある小学校。詩人八木重吉もここ川尻小学校の卒業生で校庭には詩碑があり、桜の古木が多く残ります。また、隣にあるこどもセンターには大きな楠(くす)があます。
- ⑥ 県道鳥屋川尻線**  
 国道413号線の城山高校前から太井地区まで津久井湖の北側を通る県道には桜の並木があります。特に中沢地区では満開の頃、桜のトンネルが現れます。
- ⑦ 津久井湖城山公園・水の苑地**  
 相模川を堰きとめ、昭和40年に完成した津久井湖。湖底に沈んだこの付近は三工区といい、かつて桜の名所で水の苑地には今でも多くの桜が植えられています。
- ⑧ 神奈川県企業庁谷ヶ原浄水場**  
 谷ヶ原浄水場は、急速に発展した相模原地方の水需要に対応するため昭和17年から給水を開始しました。現在は、相模原市、厚木市、愛川町に供給しています。
- ⑨ 旧小倉橋周辺**  
 鉄筋コンクリート製連続アーチ型の旧小倉橋は、昭和13年に完成。その昔多くの文人墨客が訪れたこの地は、かながわの景勝50選、相模川八景の一つに選ばれています。
- ⑩ 葉山島の芝桜**  
 藤木バス停と中平バス停近くに広がる水田地帯の堤防沿いに約10,000株の芝ザクラがあります。その近くには菜の花畑も広がります。  
 この水田は、東林寺の住職や地元の有志が中心となり、明治から大正にかけて洪水による堤防の決壊などの難局を乗り越えながら完成させたものです。

## 三工区 (さんこうく)

「横浜水道」の「第三工(事)区」という意味で、明治開国の門口「横浜」へ送水する水道工事区の名前がそのまま名勝の名前となりました。

旧城山町側の県立津久井湖城山公園・水の苑地には津久井湖畔に見事なサクラの古木があり、春の開花期には湖面に美しい影を落とす。向こう岸、旧津久井町側の水の苑地のサクラも見事で例年4月上旬行われる「津久井湖さくらまつり」はいつも盛況だ。  
 「ここはサンコークと言ってナ、昔から桜の名所だった」と年配の人は昔を懐かしむ。  
 英国人ヘンリー・S・パーマーが設計、監督した日本初の近代水道「横浜水道」はここで相模川(津久井溪谷)を渡り横浜の野毛山まで送られた。導水管橋は鉄橋で、橋を中心に川の両岸は美しく整備され、サクラ(染井吉野)とツツジが整然と植えられており、美しく風光明媚な観光地だった。(育てる会 加藤 正彦)



ありし日の三工区と鉄橋

## サクラサク

### 桜の思い出 育てる会 八木薫

相模川の斜面にある大島から西に走っているトロッコの線路みちを行くと川尻隧道沿いに三工区のトンネルの入口に出る。子どもたちは、てんでに棒切れを拾ってトンネルの中に入って行く。真っ暗なトンネルの中で棒を壁にあてて自分の位置を確かめながら中に進む。枕木に足を取られないよう用心しながら進むと、向こう側にうっすらと明るみが見えてくる。みんなはワーッと声を上げ、とつとこ、とつとこと駆け出す。一時も早く暗闇から抜け出したいからだ。トンネルを抜けると別世界、暗闇になれた目には眩しいまでの明るい春の日射しと満開の桜。その下には花に酔い酒に酔っ払った人達が三々五々と行き交い露天の葦簀張(よしずばり)がジグザグに下る線路みちに立ち並び、この谷間ににわかに小さな町が出現したかと思われる風景をかもし出していた。



ありし日の三工区

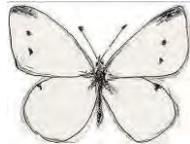
## 号堂桜

津久井に生まれ、「憲政の神様」、「議会政治の父」と称される尾崎行雄。政治家としての偉業とともに、行雄が東京市長在職中の明治45年、米国に贈った桜の苗木が「日米友好の証」を築いたことはよく知られ、桜が移植されたワシントン D.C.のボトマック河畔は今も桜の名所となっています。贈られた苗木の故郷が荒川堤であったことにちなみ、東京都足立区の区制50周年を記念に米国から桜の苗木が里帰りしました。平成4年、行雄ゆかりの地である津久井の各所に移植された。近隣では、尾崎号堂記念館(号堂桜と命名、品種は普賢象)、城山保健福祉センター、県立城山高校で見ることができます。

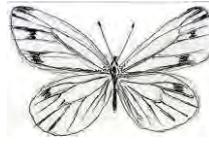
## 白いチョウチョ

「あっ白いチョウチョが飛んでいる、モンシロチョウ

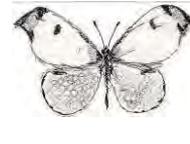
かな」と思うかもしれませんが、このあたりでは4種もの代表的な白いチョウチョが見られます。そのうちツマキチョウとウスバシロチョウは春にしか見られず、一番多くの種類が見られる春は白いチョウの観察の良い季節です。飛んでいる姿では区別するのは難しいかなと思いますが、運良く止まっている姿が見られたらどの種類だか観察するのも楽しいですよ。



モンシロチョウ



スジグロシロチョウ



ツマキチョウ



ウスバシロチョウ

## 卯年観音 - 普門寺 -

## この春、12年に一度のご開帳

江戸時代の中頃、多摩川と相模川の上中流の地域を中心に武相観音霊場が成立しました。第1回の開帳は宝暦9年(1759)の卯年。以来、12年に一度、卯年に総開帳が行われてきました。第25番札所である中沢の普門寺の聖観音立像も、「卯年観音」として今も親しまれています。

ご開帳の時期(4月1日~30日)は五色の布、回向柱によって、間接的に仏様とつながることができます。



発行：相模原市教育委員会 生涯学習課 城山教育班  
企画/作成：城山エコミュージアムを育てる会  
問い合わせ：TEL：042-783-8184  
FAX：042-782-1290

エコミュージアム活動は「城山エコミュージアムを育てる会」が中心となって進めています。和気あいあいと楽しみながら行っています。

この通信は、相模原市ホームページでも見ることができます。

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>